

若手音楽家育成事業 プラットワンコインコンサート
デュオ・ネリネ「チューバ デ 夏の夢」

2025 年 7 月 11 日 金曜日
午後 6 時 30 分開演
穂の国とよはし芸術劇場プラット
アートスペース

出演

チューバ わたなべのぞみ

ピアノ なかじょうひびき

【プログラムと解説】

1. ベルガマスク組曲より 月の光

C.ドビュッシー

C.ドビュッシー(1862 年生まれ-1918 年没)はフランスで活躍した作曲家。代表曲には、《喜びの島》や《子供の領分》、交響詩《海》があり、豊かな色彩の表現を追求した近代フランス音楽の代表的作曲家である。1890 年にピアノ独奏用として作曲されたこの組曲は、イタリア留学時代にベルガモ地方の農民生活からインスピレーションを受け、作曲されたとされる。組曲は〈プレリュード〉〈メヌエット〉〈月の光〉〈パスピエ〉の全 4 曲からなる。ドビュッシーは生涯に「月」や「月の光」に関する楽曲を 27 曲も手掛けている。中でも《ベルガマスク組曲》の第 3 曲〈月の光〉は、フランスの詩人 P.ヴェルレーヌの詩「月の光」からインスピレーションを受けて作曲されたとされている。

2. カプリッチョ

R.ニュートン

R.ニュートン(1945 年生まれ)はイギリスのバーミンガムで生まれたパーカッション奏者、作編曲家、音楽ジャーナリストである。彼のキャリアはパーカッション奏者としてスタートし、その後作編曲家として音楽家としての幅を広げた。ニュートンは多作で多才な作曲家で、多くの交響曲、弦楽四重奏曲、声楽、映画音楽、チューバ、ユーフォニアム、フルートのコンサート、コンサートオーケストラ、ブラスバンドのための多くの曲を手がけた。2017 年以来、サルフォード大学の外部審査官を務め、フリーランスの指揮者、編曲者、作曲家、音楽ジャーナリストとして継続している。

カプリッチョとは、奇想曲、狂想曲という意味で気まぐれで奇抜な曲想が特徴である。2005 年に国際的ソロチューバ奏者ジェームズ・グーレイのために書かれ、初演はオーケストラ版だが、ピアノ版、吹奏楽版も作られている。曲中短いカデンツァが巧みに織り込まれており事実上 9 分間の協奏曲となっている。

3. ソナチネ 第 1 楽章

M.ラヴェル

M.ラヴェル(1875 年生まれ-1937 年没)は、フランスで活躍した作曲家であり、C.ドビュッシーと並び近代フランス音楽を代表する人物である。ペントニック(5 音音階)や印象派にも通じる自然や幻想世界の表現が特徴的な作風である。

ソナチネは 1903 年に音楽雑誌主催の作曲コンクールのために書いた曲で、小節数の規

定のため小規模な作品である。曲は 3 楽章構成だが第 1 楽章の主題が第 2、3 楽章にも和声やリズムが変形して登場する。第 1 楽章は、「中庸な速さ」と題されており、繊細な輝きを持つメロディが叙情的に歌われながら、簡潔なソナタ形式にまとめられている。

4. 火祭りの踊り

M. ファリャ

M. ファリャ(1876 年生まれ-1946 年没)は、スペインのカディスに生まれのちにパリに渡って活躍した作曲家である。マドリードで音楽を学び、1899 年から作曲家として活動をした。ファリャの初期の作品はロマン主義的な雰囲気で作られているものが多く見られるが、1905 年以降、スペインの民族的な特徴を持つ楽曲を多く発表した。パリに渡ってから、ドビュッシーやラヴェル、デュカスらと交友関係を結び、彼らから印象主義の影響を受けた。その代表的な作品の一つにバレエ音楽《恋は魔術師》(1924)があり、〈火祭りの踊り〉はその作品の一部である。スペイン民族主義と印象主義をうまく融合させた作品である。

5. ピアノ・ソナタ第 8 番「悲愴」より 第 2 楽章

L. v. ベートーヴェン

L.v. ベートーヴェン(1770 年生まれ-1827 年没)は、ピアノ・ソナタを生涯に 32 曲を手がけた。中でも第 8 番《悲愴》、第 14 番《月光》、第 23 番《熱情》は、ベートーヴェンの 3 大ソナタと呼ばれ親しまれている。

第 8 番は 1797 年に作曲され、ベートーヴェンの後援者リヒノフスキー伯爵に献呈された。出版にあたり、作曲家自身により《悲愴なる大ソナタ》とタイトルがつけられた。ピアノ・ソナタで出版時に表題がつけられていたのは《悲愴》と第 26 番《告别》のみで、他は全て後世の命名である。《悲愴》は全 3 楽章からなり、中でも第 2 楽章は抒情的で優美な旋律が特徴の緩徐楽章である。

6. テューバ協奏曲

R.V. ウィリアムズ

第 1 楽章 Prelude

第 2 楽章 Romanza

第 3 楽章 Finale – Rondo alla Tedesca

R.V. ウィリアムズ(1872 年生まれ-1958 年没)はイギリスの代表的な作曲家。パリでの留学時に M. ラヴェルに師事した。オーケストラや吹奏楽、声楽や合唱作品など多作な作品を残している。作曲家としてのデビューは 30 歳の時、《海の交響曲》《ロンドン交響曲》など、表題がついたものもある全 9 曲の交響曲を作曲。当時吹奏楽オリジナル曲が存在しない時代のため、同級生でもあり、「組曲《惑星》」で名が知られるホルストの《吹奏楽のための第 1 組曲》《吹奏楽のための第 2 組曲》とともに吹奏楽曲の古典と呼ばれている《イギリス民謡組曲》を手がけた。多様な音楽形式があり、常にイギリスの 17、18 世紀の音楽、伝統的な民謡や讃美歌への参照がある。

テューバ協奏曲は、1954 年に作曲された音楽史上初の「テューバのために書かれた協奏曲」。ロンドン交響楽団の創立 50 周年を記念して作曲され、同団のテューバ奏者カテリネットの独奏、バルビローリの指揮で初演され、同団に献呈された作品となる。現在ではオーケストラのオーディションやコンクールなどで必ず課題となっている。曲中には民謡特有の音階「5 音音階」、東洋風な旋律が特徴的な作品となっている。作曲者自身の指示により、チェロやファゴット、ユーフォニアムによって第 2 楽章のみ単独に演奏することが可能にな

っている。

【出演者プロフィール】

わたなべのぞみ

愛知県豊橋市出身。12歳よりマーチングバンドで低音楽器に魅了されチューバを始める。聖カタリナ学園光ヶ丘女子高等学校吹奏楽部を経て、愛知県立芸術大学音楽学部器楽専攻菅打楽器コースを卒業。2021年 Leonard Falcone International Euphonium and Tuba Festival セミファイナリスト。2022年秋吉台音楽コンクールチューバ部門出場。2023年愛知県立芸術大学同窓会主催ベルシェーヌ新人演奏会出演。これまでに柏田良典、林裕人の各氏に師事。現在、つつじが丘ジュニアマーチングバンドのブラストレーナー、フリーランスのチューバ奏者として活動。

なかじょうひびき

第23回”万里の長城杯”国際音楽コンクール大学生の部第1位及び理事長賞受賞。Music and Stars Awards Piano emergent 部門 Gold Star 受賞。第25回日本クラシック音楽コンクール高校生の部第3位。第15回セシリア国際音楽コンクール大学生の部第5位。MusicAlp 夏季国際アカデミー(フランス)に参加、選抜コンサートに出演。2022年名古屋にてリサイタルデビュー。2023年にKNSclassical からデビューCD「Sonorité」をリリース。同CDはイリーナ・チュコフスカヤ氏(1980年ショパン国際ピアノコンクール第6位)から賛辞を得る。これまでに、寺岡由美子、國谷尊之、宮坂純子、迫昭嘉、イリーナ・チュコフスカヤ、松本総一郎、内本久美の各氏に師事。2023年度山田貞夫音楽財団奨学生。愛知県立芸術大学を経て同大学院修士課程鍵盤楽器領域修了。

【スタッフ】

譜めくり:こたにゆりか

舞台:かたぎりけん

音響:さはらひろのぶ

照明:いけだとしはる

制作:ながさかなほみ、いしだあきこ

票券:かがちなつ

主催:公益財団法人豊橋文化振興財団

企画制作:穂の国とよはし芸術劇場プラット

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人日本フィランソロピック財団による第1回「東海演奏家の架け橋基金」助成事業